

モーツァルト室内管弦楽団 第158回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 158. Regulärkonzert

〈ベートーヴェン・シリーズ〉第4回

2014年5月31日(土)午後2時■いずみホール

Samstag, 31. März, 2014 14Uhr Izumi Hall, Osaka

- 主催:モーツァルト室内管弦楽団 <http://moz-kam.org>
- 協賛:いずみホール〔一般財団法人 住友生命福祉文化財団〕
- マネジメント:大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503/FAX06-6135-0504

*ロビーでは大阪ユニセフ協会を通じて、世界の子どもたちのための募金活動を行っています。



モーツァルト室内管弦楽団 第158回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 158.Regulärkonzert

2014年 5月31日(土)午後2時●いずみホール

Samstag, 31. März, 2014 14Uhr Izumi Hall Osaka

〈ベートーヴェン・シリーズ〉第4回

ベートーヴェン

Ludwig van Beethoven (1770-1827)

《レオノーレ》序曲 第3番 作品72b

„Leonore“ Ouverture Nr.3 op.72b

ピアノ、ヴァイオリン、チェロと管弦楽のための協奏曲 ハ長調 作品56*

Konzert C-dur für Klavier, Violine, Violoncello und Orchester op.56*

I. Allegro

II. Largo

III. Rondo alla Polacca

* * *

交響曲 第5番 ハ短調 作品67 《運命》

Sinfonie Nr.5 c-moll op.67

I. Allegro con brio

II. Andante con moto

III. Allegro

IV. Allegro

ピアノ:三木康子*/Klavier: Yasuko Miki*

ヴァイオリン:ギオルギ・バブアゼ*/Violine: George Babuadze*

チェロ:林 裕*/Violoncello: Yutaka Hayashi*

管弦楽:モーツァルト室内管弦楽団/Orchester: Mozart-Kammerorchester

コンサートマスター:釋 伸司/Konzertmeister: Shinji Shaku

指揮:門 良一/Dirigent: Ryoichi Kado

次回 〈ベートーヴェン・シリーズ〉第5回 予告

2015年 5月10日(日)午後2時●いずみホール

モーツァルト室内管弦楽団・第164回定期演奏会

ベートーヴェン

交響曲 第1番 ハ長調 作品21/ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品19/交響曲 第7番 イ長調 作品92

独奏者:未定 指揮:門 良一

三木康子●ピアノ *Yasuko Miki, Piano*

東京藝術大学附属音楽高等学校を経て同大学卒業。その後、フランスに留学、文化庁派遣芸術家在外研修員として研鑽を積む。パリ・エコール・ノルマル音楽院ピアノ科Diplome、パリ・スコラ・カントルム音楽院コンサートイスト科を極めて優秀な成績で Diplome de Concert取得。帰国後、神戸大学大学院博士後期課程研究生満了。全日本学生音楽コンクール、日本クラシック音楽コンクール、日演連推薦新人演奏会等入賞。ソフィア国際ピアノコンクール特別賞、ショパン・エチュード賞、ブレスト国際ピアノコンクールラヴェル部門第1位。なにわ芸術祭賞受賞。アメリカ、ヨーロッパ、中国、日本各地でのリサイタルをはじめ、オーケストラとの協演やテレビ出演、室内楽ではベルリンフィル、ウィーンフィルメンバーと共演する等、精力的な演奏活動を展開している。安川加壽子、秦 はるひ、小柳芳子、Germaine Mounier、Eugen Indjic、Henri Bardaの各氏に師事。現在、大阪教育大学、大阪芸術大学、関西学院大学、大阪樟蔭女子大学各講師。(公社)日本演奏連盟、(公財)日本ピアノ教育連盟、日本音楽教育学会、日本音楽表現学会、文化庁在外研修員の会、東京藝術大学音楽学部同声会奈良支部・大阪支部、奈良県音楽芸術協会各会員。



ギオルギ・バプアゼ●ヴァイオリン *George Babadze, Violin*

グルジア国立トビリシ音楽院でシウカシュヴィリ教授に師事。在学中よりモスクワにてボロディン弦楽四重奏団のベルリンスキー氏に弦楽四重奏を学ぶ。卒業後は研究科を経て大学院に進み、指揮法をオディセイ・デミトリアデー氏に師事。同時に88年より2年間バトゥミ市交響楽団の指揮者を務める。90年よりグルジア音楽協会室内管弦楽団の芸術監督及び首席指揮者を務め、フランス、ドイツへ演奏旅行。93年にイタリアへ渡りオーケストラのヴァイオリン奏者として諸都市で演奏する傍ら、グルジア弦楽四重奏団のメンバーとしても活躍。96年9月大阪シンフォニカー交響楽団のコンサートマスターとして来日。98年トビリシ弦楽四重奏団を結成。01年10月関西フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターに就任し、02年4月からは京都市立芸術大学非常勤講師も務める。母国においては、04年グルジアの保養地ボルジョミでの国際音楽祭に参加、グルジア国立室内合奏団を指揮し好評を得る。その後、同合奏団を率いてドイツ演奏旅行を成功させる。06年1月にはグルジア国立歌劇場の客演指揮者に就任。近年は日本でも関西フィルハーモニー管弦楽団をはじめ、アマチュアオーケストラの指揮者としても活躍している。



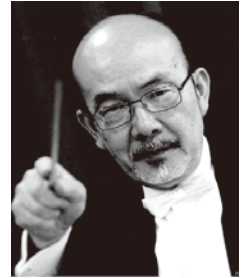
林 裕●チェロ *Yutaka Hayashi, Violoncello*

東京芸術大学卒業。第52回日本演奏連盟新人演奏会で名古屋フィルと共演し、日本演奏連盟賞・中日賞受賞。93～96年大阪フィルハーモニー交響楽団首席奏者。第62回日本音楽コンクール第1位・黒柳賞、読売新人音楽賞受賞。94年朝比奈隆指揮・大阪フィル定期演奏会でのドヴォルザーク・チェロ協奏曲の演奏で絶賛を博す。その後、ドイツ・フライブルク音楽大学大学院を首席修了。98年A.タンスマン国際音楽コンクール・ファイナリスト、ディプロマ取得。以後、青山音楽賞、松方ホール音楽大賞、兵庫県芸術奨励賞、名古屋市民芸術祭賞、神戸市文化奨励賞、神戸灘ライオンズ音楽賞、大阪文化祭賞グランプリ、音楽クリティック・クラブ賞等受賞。林良一、堀江泰氏、三木敬之、R.フラシヨ、B.ペルガメンシコフ、C.ヘンケル各氏に師事。兵庫県芸術文化センターシリーズの年間支持率No.1。CD「SOLO ist」ではシュタルケルが賛辞を寄せ、レコード芸術の特選盤となる。2013年8月7日ポップパーチェロコンクール開催。現在、相愛大学准教授、神戸女学院大学非常勤講師。いずみシンフォニエッタ大阪のメンバー。泉の森コンクール審査員。



門 良一 ●指揮 Ryoichi Kado, Dirigent

1939年大阪生まれ。フルートを曽根亮一氏に、指揮法を青山政雄氏に師事。1962年京都大学理学部卒業、67年同大学院修了。70年同志とともにモーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。87年モーツァルトのピアノ協奏曲全27曲、交響曲全74曲の連続演奏完結に対し、モーツァルト室内管弦楽団とともに第5回藤堂音楽賞を受賞。1982～2011年NHK大阪文化センター、1992～2011年同神戸文化センターにて「モーツァルトを聴く」の講師を務める。京都産業大学名誉教授。



モーツァルト室内管弦楽団 ●管弦楽 Mozart-Kammerorchester

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、40数年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用している

ことは注目に値する。91年のモーツァルト没後200年に際しては、2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いずみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に17回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス(85、87年)、シブリアン・カツェリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュッヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シテオペラの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07～09年全10回にわたる〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉を、09～11年全18回にわたる〈創立40周年シリーズ〉を、また10年からは〈ベートーヴェン・シリーズ〉を開催している。

●メンバー コンサートマスター 釋 伸司

第1ヴァイオリン	釋 伸司	本多 智子	稲庭真理子	北村 奈美	松本 紗希	菊池 優理
	森住 憲一	中野 瑞己				
第2ヴァイオリン	中川 敦史	永ノ尾文江	川島多美子	田原口安代	幣 晴代	清水めぐみ
ヴィオラ	道幸 明美	佐份利祐子	上野 亮子	三上 哲		
チェロ	山岸 孝教	境 綾子	大西 泰徳	南口 真耶		
コントラバス	南出 信一	北田 由美	松本 友樹			
フルート	長谷 瑞	久保田裕美(ピッコロも)	本庄ちひろ			
オーボエ	福田 淳	須貝 絵里				
クラリネット	高橋 博	門 小夜子				
ファゴット	佐伯 利之	羽生 尚代	中田 義博(コントラファゴット)			
ホルン	佐藤 明美	垣本奈緒子	垣本 昌芳	岩井理紗子		
トランペット	森下 智稔	新穂 優子	末岡希和子			
トロンボーン	村井 博之	大西 夏生	今田 孝一			
ティンパニ	泉 純太郎					

＜今後の定期演奏会のお知らせ＞

第159回定期演奏会 2014年 7月5日(土)14:00/天満教会

定期サロンコンサート〈クライネ・モーツァルト〉第84回例会

〈フランス音楽特集・室内楽編〉—フルートとハープを中心に—

イベール	フルート、ヴァイオリン、ハープのための2つの間奏曲
ドビュッシー	フルート、ヴィオラ、ハープのためのソナタ
フォーレ	組曲《ペレアスとメリザンド》作品80(室内楽版)
ルーセル	フルート、ハープ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロのためのセレナード 作品30
ラヴェル	序奏とアレグロ—ハープ、フルート、クラリネット、弦楽四重奏のための七重奏曲

フルート:大江浩志 ハープ:石井理子

クラリネット:高橋 博 ヴァイオリン:釋 伸司、中川敦史 ヴィオラ:佐份利祐子 チェロ:日野俊介

お話:門 良一

●第160回定期演奏会 2014年 9月7日(日)14:00/いづみホール

〈生誕300年記念 カール・フィリップ・エマニュエル・バッハとシュトルム・ウント・ドランク(疾風怒濤)様式〉

—門 良一によるレクチャーコンサート—

カール・フィリップ・エマニュエル・バッハ	交響曲 ホ短調 Wq.178
ハイドン	交響曲 第44番 ホ短調 《哀悼》
カール・フィリップ・エマニュエル・バッハ	フルート協奏曲 ニ短調 Wq.22
ヨハン・クリスティアン・バッハ	交響曲 ト短調 Op.6-6
モーツァルト	交響曲 第25番 ト短調 K.183

フルート:大江 浩志 指揮とお話:門 良一

●第161回定期演奏会 2014年 12月20日(土)14:00/いづみホール

〈モーツァルトとハイドン〉その8

モーツァルト	《救われたベトゥーリア》K.118 序曲
モーツァルト	ピアノ協奏曲 第20番 ニ短調 K.466
モーツァルト	オッフェルトリウム《主のお憐みを(ミゼリコルディアス・ドミニ)》ニ短調 K.222
モーツァルト	キリエ ニ短調 K.341
ハイドン	《ネルソン・ミサ》ニ短調

ピアノ:岡田佳子 ソプラノ:木村能里子 アルト:山田愛子 テノール:西垣俊朗 バス:萩原寛明

合唱:モーツァルト記念合唱団(合唱指揮:益子 務)

指揮:門 良一

●第162回定期演奏会 2015年 1月11日(日)14:00/いづみホール

〈創立45周年シリーズ〉第1回 〈フランス音楽特集〉—室内オーケストラによるベルリオーズ第2弾!—

アダン	歌劇《われもし王者なりせば》序曲
ラヴェル	ピアノ協奏曲
ベルリオーズ	ヴィオラ独奏付き交響曲《イタリアのハロルド》作品16

ピアノ:山田富士子 ヴィオラ:店村真積

指揮:門 良一

●第163回定期演奏会 2015年 3月7日(予定)/天満教会

定期サロンコンサート〈クライネ・モーツァルト〉第85回例会 〈創立45周年シリーズ〉第2回

〈モーツァルトの室内楽ディヴェルティメント名曲集〉

モーツァルト	ディヴェルティメント 変ロ長調 K.137
モーツァルト	音楽の冗談 へ長調 K.522
モーツァルト	ディヴェルティメント 「第17番」 ニ長調 K.334

室内楽:モーツァルト室内管弦楽団メンバー お話:門 良一

* 当初、「延期」としておりました来年3月の定期演奏会を上記の内容で「開催」いたします!平成26年度は今までどおり全6回の定期公演を行います。

ベートーヴェンの偉大さ

ベートーヴェンがいかに偉大であるかをいまさら論ずる必要はあるまいが、「ウィーン古典派」の他の二人、ハイドンとモーツァルトとの関係からベートーヴェンを見直してみてもよいかも知れない。ベートーヴェンはドイツ中西部の都市ボンの生まれだが、17歳ではじめてウィーンに旅行したときモーツァルトの演奏に接したという。その折モーツァルトに自分の演奏を聴いてもらい、「将来有名になるだろう」と言われたというが、これは多分後世が作り上げた伝説であろう。モーツァルトはベートーヴェンが世に出る前に死んでしまった。一方のハイドンはモーツァルトより20年近く長生きをしたこともあって、ベートーヴェンとの関わりはかなり長い。1792年(モーツァルトの死の翌年)、ハイドンは第1回のロンドン旅行の帰途ボンに立ち寄り、ベートーヴェンに会っている。その際ベートーヴェンは自作を見てもらうが、その結果ハイドンはベートーヴェンを弟子にすることを承諾する。ボンの選帝侯から1年間の休暇をもらい、ベートーヴェンは勇躍ウィーンに向け出発した。ウィーンにおいてハイドンのもとで作曲の勉強に専念するが、生活は苦しく、見かねてハイドンはボンの選帝侯に手紙を書き、ベートーヴェンへの支給費を増額するよう依頼もしている。だがこの師弟関係は長続きしなかったようだ。

ハイドンに関する重要な資料として、ディースという人の「ハイドン＝伝記的報告」がある。これはディースが1805年からハイドンの死の前年の1808年までの3年間、30回にわたってハイドンを訪問して行った対話を記録したものである。驚くべきことに、この対話の中にベートーヴェンのことは一切出てこないのだ。1808年に行われたハイドンとディースの最後の対話の時までに、ベートーヴェンの交響曲は第4番まで、ピアノ協奏曲も第4番まで、ピアノ・ソナタの「月光」や「熱情」、ヴァイオリン協奏曲といった傑作が初演と出版を終えており、オペラ「フィデリオ」もその初稿のかたち(「レオノーレ」)が初演されているのにである。ハイドンはベートーヴェンをその色の黒いことと野卑な外見から「モゴール(ムガール?) 皇帝」というあだ名を付けてからかい、後にはその作品に対してもあからさまな批判をしている。このため、ハイドンはベートーヴェンを破門したのだと言われるようになった(上記ディースの書の訳者、武川寛海氏の「訳者あとがき」)。

ハイドンはモーツァルトより24歳年長、モーツァルトはベートーヴェンより14歳年長であるのだが、それぞれの関係の強さは直感的には歳の差とは逆のように思える。モーツァルトは特に弦楽四重奏曲と交響曲の分野においてハイドンに私淑していたと言えようし、ハイドンは晩年の2大オラトリオ、《天地創造》と《四季》においてモーツァルトからの影響をあらわにしている。ところがモーツァルトとベートーヴェンには共通したところはあまりないように思えるのだ。一方、

ベートーヴェンがハイドンに負っているものは非常に多いと言える。交響曲という形式を完成し、音楽の主要なジャンルとして位置づけたのはハイドンであるし、ベートーヴェンは師の方針を受け継いで交響曲の世界で作曲家としての勝負をした。ハイドンの時代には音楽作品は一回性のもので、作曲家は次々に新作を生み出さねばならなかったのだが、ベートーヴェンは密度の高い少数の作品を何度もくりかえし演奏して聴かせるという新しい時代を切り開いた。ハイドンは100曲を越える交響曲を作らねばならなかったが、ベートーヴェンはその1割にも満たない数で世界を征服できたのである。

さて、本日演奏する交響曲第5番、俗に《運命》と呼ばれている曲は、そのようなベートーヴェンの交響曲の中でも代表的な作品であるが、冒頭の有名な4つの音「タ・タ・タ・ター」がモーツァルトに由来すると言えば驚かれる人が多いであろう。モーツァルトの数多いピアノ協奏曲の中でも終わり近くに「第25番ハ長調K.503」という作品がある。傑作であるにもかかわらずその前後の作品に比べて聴かれる頻度はかなり少ないのだが、この曲の第1楽章は、この「タ・タ・タ・ター」という4つの音で構成されている。《運命》のように人を驚かすような使い方ではないが、全体が4つの音の積み重ねで作られているというところがベートーヴェンを思わせるのである。というより、この曲から受ける印象が、変な言い方だが、非常にベートーヴェンくさいのである。言い方を変えれば、われわれがベートーヴェン的と思っているものが多くモーツァルトに帰せられるということである。ベートーヴェンはまずピアノ協奏曲第4番(この曲も「タ・タ・タ・ター」という4つの音で始まる)において上記のモーツァルトのピアノ協奏曲を模倣し、《運命》でそれをさらに発展させたのである。

以上に述べたように、ベートーヴェンはハイドン、モーツァルトという偉大な先輩から多くのものを受け継いで発展させているのだが、またそれから大きくはみ出してもいる。彼の音楽から感じられる強烈な意志の力、強引なまでの迫力、爆発的な推進力は二人の先輩にはないものである。ベートーヴェンの「古典派」からのみ出し方は尋常ではなく、彼と比べるとその後のシューベルト、メンデルスゾーン、シューマンといった人たちが可愛らしく思える程である。ハイドンが嫌った「野卑」なまでのパワーがすなわちベートーヴェンの偉大さの根源なのであり、それがなければベートーヴェンはハイドンとモーツァルトを越えることができなかったであろう。

[参考文献]・「音楽大事典」(平凡社、1983年)

・A. Ch. ディース著、武川寛海訳「ハイドン＝伝記的報告」(音楽之友社、1978年)

《レオノーレ》序曲第3番

ベートーヴェン唯一のオペラ《フィデリオ》は1804年に作曲が始められ、翌年に初演されたが不評で、その後2回の改訂を重ねて1814年に再演されようやく成功を収めた。レオノーレとはこのオペラの女主人公の名で、男装してフィデリオと名乗り、囚われている夫を救い出す役柄である。当初このオペラは《レオノーレ》と名付けられていた。ベートーヴェンはこのオペラのために序曲を4つも作ったが、《レオノーレ》序曲第3番と呼ばれる今日演奏する曲が一番出来がよく、規模も大きい。現在はオペラ上演の際、第2幕で演奏されるのが慣例となっている。オペラの内容をよく表した傑作であり、途中で囚人を救う大臣の到着を告げるラッパが舞台裏で2度鳴るのが有名である。

ピアノ、ヴァイオリン、チェロと管弦楽のための協奏曲 ハ長調

ピアノ・トリオを構成する3つの楽器を独奏部に持つ珍しい協奏曲で、「三重協奏曲」と呼ばれているが、18世紀の一時期大流行した複数楽器のための協奏曲「協奏交響曲」のスタイルに倣っている。独奏楽器の中ではチェロが終始イニシアティブを取っているが、これは当初チェロ協

奏曲として構想されたからであろう。1803～4年（ベートーヴェン33～4歳）に作曲されており、同時期の交響曲第3番《英雄》、ピアノ・ソナタ《熱情》、弦楽四重奏曲集《ラズモフスキー》などととも、ベートーヴェンの壮大な中期傑作群を構成している。

交響曲 第5番 ハ短調 《運命》

1807～8年（ベートーヴェン37～8歳）に作曲された、ベートーヴェンの代表作というだけでなくクラシック音楽の最有名曲といってよい作品である。第6番《田園》と並行して作られ、その2曲は一つの演奏会で一緒に初演されている。その際《田園》の方が先に演奏されたので、《田園》が第5番、《運命》が第6番となってもおかしくはなかった。冒頭の4つの音からなる有名な動機「タ・タ・タ・ター」が全楽章に現れる構造は、後のロマン派に大きな影響を与えた。終楽章においてピッコロ、コントラファゴット、トロンボーン(3本)が追加されており、交響曲におけるこのようなオーケストラの拡大はベートーヴェンが始めたものである。なお、この曲の《運命》という呼び名は、「運命はかくのごとく戸をたたく」とベートーヴェンが言ったと伝えられることによるのだが、その名で呼ばれるのは日本でだけのものである。

「モーツァルト室内管弦楽団を応援しよう！」ご賛同者（敬称略）

昨年度および今年度の日本芸術振興会の補助金申請不採択に際しての「モーツァルト室内管弦楽団を応援しよう！」キャンペーンに対し、多数の方々から多くのご支援をいただき、まことにありがとうございました。ここにお名前を記載させていただきます、厚く御礼申し上げます。

【平成25年度】

●ご寄付をいただいた方

稲垣千代子、田中 徹、津田暁子、河野幹雄、河野奈津子、金定秀光、碓井昭彦、碓井みち子、阿部由美子、笠松規子、小柳陽一、渡辺優子、八幡 順、三谷郁子、祐野周三、谷口安平、祐野尚子、隅谷正一、橋本靖昭、石光正男、中東富佐子、萬野尊昭、西川保子、深田晴世、中村智代子、村本孝夫、奥村一二、高松孝之、島村 猛、中井武司、国友正和、田中四郎、杉浦和子、前田純一、石本三千也、林六(株)、笹川忠士、佐野哲郎、菱谷勝次郎、菅 正徳、大磯隆一、福岡隆子、緒林桂子

●新しく後援会にご入会いただいた方

法人会員：三孝会、上野製菓、三井住友銀行、NPO法人遺族支え愛ネット

個人会員：乾 賢次、井狩彌介、井狩啓子、原田隆宏、村上小夜子、増見達生、東 里香、西村芳穂、関 英夫、曾我見郁夫、筑瀬重喜、荻原満里子、笠松規子、近藤康博、松江忠二、阪本延夫、増田明子、宇民 正、高松孝之、後藤喬雄、今西三郎、今西道子、島村須美子、青山由子、那須市子、文野彰蔵、富田昭子、土橋康男、土橋瑞枝、福谷 巖、富田茂利、森崎嘉之、匿名3名

●後援会会費を増額していただいた方

法人会員：三井住友カード、新日鐵住金、林六、荒川化学

個人会員：能田久美、岸田多門

【平成26年度】

●ご寄付をいただいた方

石光正男、稲垣千代子、高松孝之、金定秀光、河津清子、東武次郎、碓井昭彦、碓井みち子、岸田多門、三谷郁子、菱谷勝次郎、小川雄介、笠松規子、能田くみ、中東富佐子、前田純一、阿部由美子、栗原順子、中井武司、池田洋子、神林恒道、松本幸道、小柳陽一、祐野尚子、福岡隆子、宮井茂治、宮井芳子、八幡 順、萬野尊昭、青山由子、那須市子

●新しく後援会にご入会いただいた方

個人会員：高松孝之

会長 谷口 安平 (京都大学名誉教授)

監事 玉井 英二 (三井住友カード特別顧問)

顧問 伊藤 郁太郎 (大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長) 梅原 猛 (国際日本文化研究センター顧問)

(50音順)

《法人会員》(50音順)

荒川化学工業	阪野商店	住友倉庫	福山製紙
遺族支え愛ネット	三孝会	ダイキン工業	丸山興産
上野製薬	サンリーホールディングス	大同ケルカルエンジニアリング	三井住友カード
関西電力	新日鐵住金	高松建設	三井住友銀行
きんでん	住友精密工業	中西金属工業	
小林製薬	住友生命保険	林六	

《個人会員》(入会順・敬称略)

深田晴世	金定嘉也子	菱谷勝次郎	山万下鉄男	原村上隆宏
福岡隆一	菅正高徳	足立宣武	萬佐哲昭	小里夜子
梅原本三	日藤啓明和	東豊田田	佐野孝智	達芳穂夫
石村真也	馬場野和子	飯宮塩脇	早富久子	英郁夫
田村克己	阪和桑名孝	塩脇清時	真理子	重満里子
岸村博也	田光正方	河津竹悦	良義小美	瀬阪松藤
梅屋良正	高杉島武	荒宮栗野	久洋浩	近阪江田
屋田垣千代	川中井井	宮野森小	一英好	今島青那
國稻佐和	高川中井	野口本山	明浩子	西村山須
浮田俊太郎	弘子一郎	原井井本	津雄二	文富士土
桑山郁子	信一郎	磯井原原	敏謙二郎	富橋橋谷
三谷浦島	敬夫	大細大伊	俊隆寛友	福富森
三水渡川	優美津	山原井井	川原岡岡	田田井藤
平安藤本	邦太三	大細大伊	早森片片	田田井藤
安橋阿中	由美幸	山原井井	川原岡岡	田田井藤
阿村本本	孝夫道	大細大伊	早森片片	田田井藤
村松本川	幸道士	大細大伊	早森片片	田田井藤
笹林桂子	子彦	大細大伊	早森片片	田田井藤
緒井井昭	みち子	大細大伊	早森片片	田田井藤
確井井重	龜門	大細大伊	早森片片	田田井藤
確長岸能	多治子	大細大伊	早森片片	田田井藤
岸能宮祐	尚秀	大細大伊	早森片片	田田井藤
金定秀光	得田	大細大伊	早森片片	田田井藤

- 会費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。・法人会員につきましては年会費1口10万円です。
- 会員の特典
- ・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口につき個人各1枚、法人各5枚)
 - ・ご同伴者は10%割引となります。
 - ・関連演奏会のご案内またはご優待を致します。
 - ・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。
 - ・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。